



安浦に漫画家あり メジャーをめざして!!



執筆中の小西さん

『広島お好み焼き娘かなえ』は、安登西在住の小西秀明さん(44才)が描き続けている漫画です。小西さんは、小学3年頃から漫画を描き始め、東京のアニメーション専門学校で学ばれ、現在は地元安浦で今の広島の人たちに感謝をこめて、広島風お好み焼きを題材にした漫画を描き続けています。この漫画は、インターネットで見ることが出来ます。



「広島お好み焼き娘かなえ」の1コマ

漫画の主人公の夢は高校卒業後、進学せずお好み焼き屋になること。お店を舞台に繰り広げる人生ドラマに「かなえ」が大奮闘。現在1話から3話が公開されていますが、9月頃には完結予定の第4話がアップされます。

わが町から第2の手塚治虫、水木しげるを育てるべく漫画を見よう! さあ、インターネットを開いて作品に目を通してみましょう。

「広島お好み焼き娘かなえ」で
検索!! 検索!!

ハンドベル



ハンドベル演奏

涼やかな音色で慰問!!

ハンドベルリンガーズ

ハンドベルの活動は川崎百合枝さん(82歳)の指導で2004年から活動開始。メンバーの12人がまちづくりセンターで練習し、秋の文化祭や3月の発表会に成果を披露。他にも地域のサロンや老人施設等にも、慰問演奏へでかけています。

今回は安浦中央保育所で「アンパンマン」や「花は咲く」をいきいきと演奏し、涼やかな音色に園児や保護者のみんながうっとりしました。

ハンドベルが日本に入って来たのは40年位前、楽譜が読めなくても川崎さんがわかりやすく指導して下さるので大丈夫。ぜひ入部をとメンバーからのお誘いです。間違えても「笑う・気にしない・反省もしない!」なるほど! みんなが和気あいあいと長続きできる秘訣ですね。将来の夢は中四国大会に行くことです。



川崎さんの説明



園児の感謝

ハンドベルリンガーズ
連絡先: まちづくりセンター
電話 84-3636
練習: 第2・4水曜日 9:30~11:30

安浦の珍しい祭

住吉神社

こども奉納相撲

飛び込み歓迎!



境内にある奉納相撲の碑

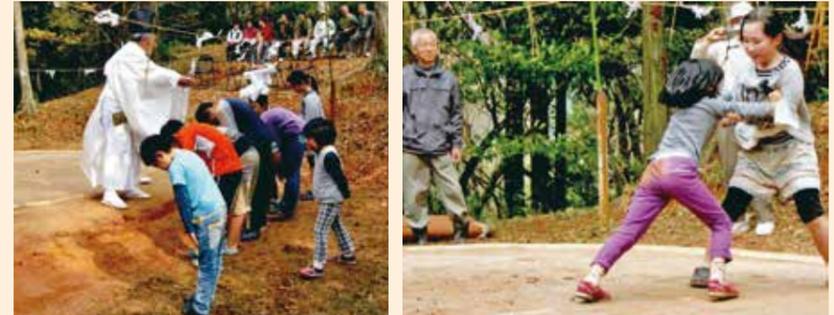


住吉神社

野呂川の河口にある住吉神社は、元禄3年(1690年)に建立され320年余りの歴史があります。

その住吉神社では社殿が建立された宝暦12年(1762年)より、神事の後に奉納相撲が行われるようになりました。当初は素人力士による相撲でしたが、第2次世界大戦中より若者が少なくなり、こども相撲に変わりました。現在の奉納相撲は11月の秋祭りに行われ、5才から12才までのこどもが男女関係なく20数名が土俵にあがります。

優勝者には大関の御幣が与えられ、上位には副賞もあるそうです。



こども相撲(ハッケヨイ、ノコッタ、ノコッタ)

今年も11月上旬に開催されますので、我こそはと思うこどもたちは、是非ご参加ください。

問合せ先: 安浦市民センター 電話 84-2261

まちづくり活動

安浦ボランティアガイド養成講座のご案内

安浦町の歴史・文化・食の情報を町内外の人たちに伝えるため、ボランティアガイドの養成講座を開催します。

途中参加もOKなので関心のある方は是非ご参加ください。

9月・10月・11月・12月、各月2回開催

毎月第2・第3土曜日に開催。

(各月1回目は机上研修・2回目は現地実習)

9月は10日(土)・17日(土)開催します。

開催

時間: AM9:30~11:30

場所: 安浦市民センター会議室

主催: 安浦町観光協会

問合せ先: 安浦市民センター内

安浦町まちづくり協議会 山田
TEL 0823-84-2261

みなさんのご参加をお待ちしています。

語る会 障がいを持つ子どもの親の会

安浦地区で50年以上の歴史を持つ会です。子どもやきょうだいも一緒に参加できるので、子ども同士で遊んだり、お互いのきょうだい同士が触れ合える機会にもなっています。

家族に障がい者がいると、親だけではなくきょうだいも孤独に繋がることがあり、そんな時自分だけじゃないと思える存在が近くにあるということはとても強みになります。

毎月第二土曜日ポラーノ広場
(安浦町中央6-1-25)

お問い合わせ
地域ネットくれんど(大本)
TEL84-3731

おでかけ情報

月	おしゃべりサロン	敬老会	総合検診	きらめき音楽館	「はっば」カフェ(認知症介護支援)	親子3B体操	おしゃべりサロン	あそび場(くれんど)	ストレッチ教室	一品料理教室	安浦友愛大学大学祭	「はっば」カフェ(認知症介護支援)	親子3B体操	きらめき音楽館	おしゃべりサロン	あそび場(くれんど)	ストレッチ教室	「はっば」カフェ(認知症介護支援)									
9月	毎週(火・木) 10:00~15:00 安登駅前駐輪場2階	9/18(日) 13:00~ きらめきホール	9/23・26~30 安浦保健出張所	9/24(土) 11:00~ きらめきホール	9/24(土) 13:30~15:00 川尻・安浦包括支援センター(参加費100円)	9/27(火) 10:00~12:00 きらめきホール(参加費1,600円)	毎週(火・木) 10:00~15:00 安登駅前駐輪場2階	10/1(土) 13:30~16:00 ポラーノ広場	10/11(火) 10:00~11:30 安浦保健出張所	10/11(火) 10:00~13:00 安浦まちづくりセンター調理室(受講料1,400円)	10/12~14(水~金) 安浦まちづくりセンター	10/22(土) 13:30~15:00 川尻・安浦包括支援センター(参加費100円)	10/25(火) 10:00~12:00 きらめきホール(参加費1,600円)	10/29(土) 14:00~ きらめきホール(入場料2,000円)	毎週(火・木) 10:00~15:00 安登駅前駐輪場2階	11/2(水) 13:00~20:00 11/3(木) 9:00~16:00 安浦まちづくりセンター	11/5(土) 13:30~16:00 ポラーノ広場	11/8(火) 10:00~11:30 安浦保健出張所	11/8(火) 10:00~13:00 安浦まちづくりセンター調理室(受講料1,400円)	11/20(日) きらめきホール	11/22(火) 10:00~12:00 きらめきホール(参加費1,600円)	11/26(土) 13:30~15:00 川尻・安浦包括支援センター(参加費100円)	11/27(日) 9:00~15:30 安浦まちづくりセンター	毎週(火・木) 10:00~15:00 安登駅前駐輪場2階	12/4(日) 13:30~16:00 ポラーノ広場	12/13(火) 10:00~11:30 安浦保健出張所	12/24(土) 13:30~15:00 川尻・安浦包括支援センター(参加費100円)

やすうら 記憶遺産

山本讓翁の残した 450 枚の風物画でたどる
安浦・暮らしの記憶

画家として名声を得る人は世の中にひとにぎり。けれども、市井に暮らす無名の絵描きの絵筆が、かけがえのない輝きを放つことがあります。今から100年あまり前、1905（明治38）年、安浦町に生まれた山本讓さんは生涯におよそ450枚の絵を描き残しました。そこには、今は失われた安浦の風俗や季節ごとの暮らしが生き生きと描かれています。その風物画を通してこの土地の暮らしの記憶を掘り起こしてみました。



「川尻・小用入口 寒風峠 (大正七年当時)」

制作：1978（昭和53）年、9月20日当時の写真資料などを参考に制作したものと推測されます。



下草に太陽が照り返す松林と大きな岩が目を引く絵です。松のまばらな斜面は、雑木を燃料として刈り歩いた近世以来の人跡でしょうか。現在は国道185号線とJR呉線が平行して走り、崖下に造船所が操業する場所で、安登と川尻の境となる峠道です。

峠を川尻側に降りていく土ほこりの旧道、そこに立つ大岩は、奇岩が多い瀬戸内特有の風景であり、昔の人々が秘めた心理的な村境を示す目印とも言えます。

この絵に描かれた道は、トンネルが続く線路よりさらに上、荒れた山中に今もひっそりとあり、「さあ、村境まで来た。」という大岩は〈山ノ神天狗岩〉、と碑に刻まれています。歩いて通る生活の道、素朴な峠道の記憶がここに 있습니다。

イギリス高速鉄道で発車間近!!

安浦の技術が貢献

安登地区を拠点として、製缶を主力に事業展開する若元工業。近年は鉄道車両などの製作にも領域を広げ、JR西日本や川崎重工にも納車実績があります。

JRの新型車両「レッドウイング」や「ななつ星」の客室空調設備実験車両など数々の試作品を製作されています。3年ほど前に日立から、イギリス都市間高速鉄道（車両名：クラス800）試作車両の製作注文があり、製造は困難を極めたが、3カ月の短期間で作り上げました。「今までの経験と業績を買われたビックイベントに、組織を挙げて取り組みました。」と現場から達成感あふれるコメント。現在・若元工業の試作を元に作られた車両はイギリスに渡り、2017年の営業予定です。

イギリスへ旅行される機会がありましたら、安浦の技術が貢献して作られた高速車両：クラス800に乗車されてはいかがでしょうか。



製作中の模型



完成車両のクラス 800



美肌工房 ますたに

呉市安浦町安登西5丁目2-5 ☎ 84-3036

あなたの綺麗をおてつだい!!

美肌工房ますたに



店内ショールーム

昭和38年当時の初代彦志さんとご夫妻と初荷式



直美さん 幸子さん 真奈美さん

幸子さんとビューティースタッフの直美さんと真奈美さん

「美肌工房ますたに」は、初代升谷彦志さんが昭和24年、安登地区で初めて文具・食料品等の店として「升谷商店」を創業。昭和30年代には化粧品や電化製品も取り扱い、その後平成21年9月には2代目矢野幸子さんが、当地に店舗を移転、化粧品専門店(美肌工房)としてリニューアルしました。

現在は、ビューティースタッフ2名と共に、「お客様それぞれの肌を確認～レッスン～エステ～アドバイス」を行うことにより、「綺麗を知り・学び・磨き・レベルアップをしてほしい!!」と、化粧品販売だけでなく、レッスン指導にも重点をおく幸子さん。



昭和38年発行の「安浦町の展望」47ページの広告「升谷商店」。当時の電話番号(川尻局36番)これからも当時の安登地区は電話・郵便など、川尻の影響が強かった歴史が伺える。

お客様は、安登だけでなく音戸～竹原と広範囲、これからも女性の美の専門家として、お客様とふれあいながら、絆を深めて皆様の綺麗を追い続けたいと願う幸子さんです。

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景をご覧ください。

内海・西福寺からの眺め



昭和30年代の写真と思われる。左中段に内海小学校(現安浦小学校)と、左上部に武智丸が写っている。



島影と三津口湾は同じであるが、内海地区は宅地化が進んでいる。

中切 峠条地区



昭和40年前後の写真と思われる。のどかな田園風景である。



山や道は変わっていないが、民家が増え山裾には竹が繁っている。